フットボールスタジアム検討協議会　第１回会議
会議概要

１　会議の概要

日　時：令和８年４月26日（日）14:00～16:00
場　所：岡山県庁３階　大会議室
出席者：上林座長、池田委員、西明寺委員、佐古委員、堀委員、松井委員、
　　松田欣也委員、松田正己委員、森井委員

２　議　事

（１）座長の選出
　　事務局の提案に委員が賛同し、上林委員を選出
（２）協議会の進め方
　　資料のとおり

３　報告事項

（１）ファジアーノ岡山の歩み
（２）スポーツコンプレックスについて
　　資料のとおり

４　議事要旨

報告事項等を踏まえ、委員間で議論を行った。
スタジアムの必要性や協議会の進め方に関する、委員からの主な意見は次のとおり。

【全般】

○ 昨年９月の50万人の署名を受け協議会で議論を進めるが、その大きな期待に応えるためにも、遅くとも年度内に取りまとめる必要がある。

○ 東京オリンピック以降、スポーツのもつ力は、すごいものとなっている。協議会での議論は、スタジアムの議論にとどまらず、スポーツのあるべき姿についても意見を聞くべきだ。各論としてのスタジアムだけではなくファジアーノが説明したように、『子供たちに夢を』与えるためにどうすればよいか総論から検討する必要がある。

○ 若者はすべてがそろっている東京に行く、田舎には魅力がない。建物に

も寿命があり、我々だけではなく、将来、最も活用する子供たちにとって、岡山の魅力を感じられるものとする必要がある。

○ 県では、生き活きプランで、目指す県の姿を示しており、教育から産業振興、地域への愛着、結婚子育てにつながる良いサイクルを掲げている。スポーツはそれと親和性があり、計画にスポーツがどう役割を果たせるのかを考える必要がある。

○ スタジアムの整備は、住民、事業者、地権者など地域に関する様々な活動をする方が関わるエリアマネジメントの考えが必要である。

【規模等】

○ ２、３万人規模のスタジアムではなく、Ａ代表も使える人数規模が必要だ。広島は２万8,000人だが、九州・中四国最大のスタジアムが必要である。

○ スタジアムが大きくなりすぎると観客席とピッチまでの距離が遠くなる。国際テニス大会の会場や国内プロ野球などの事例では、スタジアム外に飲食を伴うパブリックビューイングを行う事例もある。規模のみを議論の対象にするのではなく、多様な観戦の方法も組み合わせて考える必要がある。

○ 行きたい人が観戦でき、新しい人を誘うことができる規模が必要である。

【協議会の進め方（意見の集約等）】

○ パブリックコメントのような形で、県民から正式に意見を聞き、その中の反対意見について、この協議会で議論をして理解を深め、必要性についての判断材料にする。とにかく、必要性についての議論を早めに進めるべきだ。

○ 社会的価値の向上は、経済価値と違って積み上げるのが難しいが、社会投資収益率など社会価値を指標で示す手法もある。県民の理解を促進するには、スタジアムが地域に与える効果を見える化し伝える必要がある。

○ 様々な理由で署名することができなかった人が、この動きをどう考えているかを明らかにしていくべきだ。合意形成の仕組みを構築することが非常に大切だ。また、パブリックコメントであっても、意見を発信する

人が少ないことも考えられ、県政広報誌や、大学や民間などの力も使って幅広く意見を聞くべきだ。

○ 岡山では、他県や海外の先行事例のように、民間が主体で取り組む素地は見当たらない。行政が主体となってやらざるを得ず、そうであれば、地域の文化、スポーツの拠点、象徴となるものを考えるべきだ。

○ 意見を聞いて合意形成を図る場合、出資割合の話にもなる。誰が主体になるかで、それぞれの意見が変わる。合意形成は、最初の段階のみならず、段階に応じて適切に行われるべきで、ある程度の具体案が出たタイミングでも行う必要がある。